

日時：2010年12月3日(金) 9:30～17:00

会場：キャンパスプラザ京都(京都駅前)

第8回 高大連携教育フォーラム

高大連携教育フォーラムは、高校・大学間の連携・接続教育問題における「国内動向の情報共有・事例研究と京都における取り組みの情報発信」を開催趣旨として実施しています。

新しい時代に求められる能力をどう育成するか ～高大接続テストの持つ意味～

第1部

基調報告

定員 200名 9:30～12:30

開会挨拶 **北村 聡**

(京都高大連携研究協議会 運営委員長 / 京都外大西高等学校 校長)

趣旨説明 **棕本 洋**

(大学コンソーシアム京都 高大連携推進室長 / 立命館大学 教授)

基調報告 9:45～10:25

テーマ **日本型高大接続の転換点**

報告者 **佐々木 隆生** (北海道大学 公共政策大学院 特任教授)

(基調報告概要)

高校から大学への教育上の接続に共通の学力把握を欠いて、大学入試に接続に必要な学力把握を依存するという「日本型高大接続」は、①高校教育課程の弾力化、②「非学力選抜」と「少数科目入試」などによって、制度としての危機を迎えています。「高大接続テスト(仮称)」は、このような危機に対応する制度的な転換を図るものです。目標準拠型の達成度テストで、「普通教育の完成」を軸とした高大接続のためのインフラを構築し、知識基盤社会段階の中等教育と高等教育の質を確保することが必要となっているのです。

シンポジウム 10:25～11:40

テーマ **新しい時代に求められる能力をどう育成するか
～高大接続テストの持つ意味～**

シンポジスト **荒瀬 克己** (京都市立堀川高等学校 校長)

村上 隆 (中京大学大学院 社会学研究科長)

帯野久美子 (関西経済同友会 常任幹事 / 和歌山大学 副学長)

コーディネーター **棕本 洋**

(大学コンソーシアム京都 高大連携推進室長 / 立命館大学 教授)

討論・意見交換・まとめ 11:40～12:30

第2部

分科会 I

定員 各80名 13:30～15:00

分科会A【キャリア】

テーマ 生徒・学生の成長の契機とキャリア教育のありかた

分科会B【入 試】

テーマ 大学0回生に必要な教育
～早期合格者に対する入学前教育～

第3部

分科会 II

定員 各30名 15:30～17:00

第1分科会【表現技法】

テーマ 対話や表現をデザインするカリキュラム

第2分科会【数 学】

テーマ 大学で伸びる生徒を育てるために

第3分科会【英 語】

テーマ 科学技術分野に求められる英語運用能力

第4分科会【理 科】

テーマ 探求活動を通じた活用能力育成と
目的志向の学習機会の提供

第2部・第3部の詳細は、裏面をご覧ください

申込方法は(先着順)裏面をご覧ください

お問合せ先(火～土 9:00～17:00)

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 高大連携事業部

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都

E-mail: kodai@consortium.or.jp

電話: 075-353-9153 FAX: 075-353-9101

主催

京都高大連携研究協議会

(京都府教育委員会 京都市教育委員会

京都府私立中学高等学校連合会 京都商工会議所

大学コンソーシアム京都)

第2部分科会Ⅰ 13:30~15:00

分科会A【キャリア】生徒・学生の成長の契機とキャリア教育のありかた

報告者1：三浦 隆志（岡山県立岡山操山高等学校 主幹教諭）
 報告者2：高田 正規（Benesse 教育研究開発センター 特別顧問）
 コーディネーター：生駒 俊樹（京都造形芸術大学 教授）

概要

若者は様々な機会から学びゆく。この分科会では、高校・大学それぞれの時点でのキャリア形成の契機と内容を視点にキャリア教育を考える。高校からの報告は、学力の伸長だけでなく、人間性の成長を目指す進路指導・キャリア教育を実施している岡山県立岡山操山高等学校の取組を報告いただく。大学・企業からは、Benesse 教育研究開発センター高田正規氏より、大学生が、就職活動を経て様々な価値観を体得し、幅広い視野で社会と自らの将来を展望していく進路意識の変化について発表いただく。各年代における、キャリア形成・人間形成の機会とその内容を高大双方から検証し、高校・大学におけるキャリア形成の現状と今後の高大連携キャリア教育への道筋を探りたい。

分科会B【入試】大学0回生に必要な教育～早期合格者に対する入学前教育～

報告者1：郡山 信一（京都府立鳥羽高等学校 進路指導部長）
 報告者2：山本以和子（京都工芸繊維大学 准教授）
 コーディネーター：並木 治（大谷大学 教授）

概要

A0・推薦入試の拡大に伴い、全大学入学定員の約45%にあたる26万人が、これらの入学で早期合格を果たしている。そして、その中で大半の生徒の大学生になる年の合格から入学までの数ヶ月間が、まさしく宙に浮いている状況である。高校では、合格を手に入れている生徒に教科指導をするのが難しいという状況があり、また大学もどこまで関与していいのかといった合格通知から入学までの期間の使い方の合意形成が高校・大学間で行われていない。よって、この期間をいかに過ごさせるかという点では、大学もなかなか手がつけられず、後手になる初年次教育に期待をしたり、視き見的な入学前教育でよしとするようになっていく。我々の研究では、ドロップアウト組は、入学前から潜在していること、そしてそれは学力面より、意欲面の維持が関係していることがわかった。合格通知をもらってから入学までの期間で、新入生となる生徒の学びに対する意欲を維持し、さらに学修継続を実行し続ける状況を作るということ、すなわち大学人としての構え・レディネスを形成する教育の機会について、高大連携でどうすることが可能かを議論する場を設ける。

第3部分科会Ⅱ 15:30~17:00

第1分科会【表現技法】対話や表現をデザインするカリキュラム

報告者1：大本 晋也（兵庫県教育委員会事務局 主任指導主事兼社会教育係長）
 報告者2：牧野由香里（関西大学 教授）
 コーディネーター：筒井 洋一（京都精華大学 教授）

概要

過去の分科会では、高校の国語科以外の様々な科目における日本語表現法教育について議論を深めてきた。そこでは、異なる科目であっても適用可能なコンテンツや手法についての学びを深めてきた。

今年度は、表現教育の授業形式に注目する。生徒・学生の学びを深め、表現する楽しさを実感するためには、教師から学生に対して、知識や考え方を一方向的に伝える伝統的な講義型形式では十分な成果を上げることができない。そこで、生徒・学生自身が対話しながら表現することが可能な参加型ワークショップ型の多様な試みがおこなわれている。

今回のゲストは、高校社会科での実践を初めとして、国立淡路青年の家などで本格的にワークショップの手法を導入しながら、「参加型の学びの場」を作っている兵庫県教育委員会・大本晋也さんと、議論や対話に注目した人間のコミュニケーションを分析している関西大学の牧野由香里さんである。

第2分科会【数学】大学で伸びる生徒を育てるために

報告者1：横 弥直浩（奈良女子大学附属中等教育学校 教諭）
 報告者2：市木 敦之（立命館大学 教授）
 コーディネーター：酒井 淳平（立命館宇治中学校・高等学校 教諭）

概要

「大学で伸びる生徒を育てたい」「大学で伸びる生徒に入学してほしい」このことに関して、高校・大学それぞれの教員の思いは同じであろう。

では生徒が大学で伸びるためには、高校までにどのような力をつけておくことが必要で、また大学では特にどのような数学が必要になってくるのだろうか。本分科会では、この問いの答えを参加者が見つけることができることを目標とする。高校からはスーパーサイエンスハイスクール指定校であり「卒業後も能力を伸ばしていく科学的素養を持った人間を育成」することを目標としている奈良女子大学附属の実践を、大学からは、「大学に必要な数学力」について、各分野による違いもふまえての報告をしてもらう。

第3分科会【英語】科学技術分野に求められる英語運用能力

報告者1：岩田 真紀（京都府立洛北高等学校 教諭）
 報告者2：堤 直人（京都工芸繊維大学 教授）
 コーディネーター：宮島 勇二（京都府教育委員会 指導主事）

概要

科学技術分野で国際的に活躍する人材を育成するために、英語教育と理科教育が補完しあいながら、言語に対する関心や理解を深め、言語活動を充実する方策を探る。

新学習指導要領に示された「英語表現Ⅰ・Ⅱ」の目標の一つである「事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力」は、理科の目標の一つである「科学的に探求する能力と態度を育てる」とこと関連づけながら伸ばすことが可能と思われる。

本分科会では、洛北高校を含むスーパーサイエンスハイスクール（SSH）4校が協同して実施しているイギリス高校生との交流実践をもとに、理科系分野の大学が求める英語運用能力を把握し、英語授業においてどのような工夫・改善が可能なのか議論を深めていきたい。

第4分科会【理科】探求活動を通じた活用能力育成と目的志向の学習機会の提供

報告者1：飯澤 功（京都市立堀川高等学校 教諭）
 報告者2：酒井 敏（京都大学大学院 教授）
 コーディネーター：平井 啓明（京都市教育委員会 指導主事）

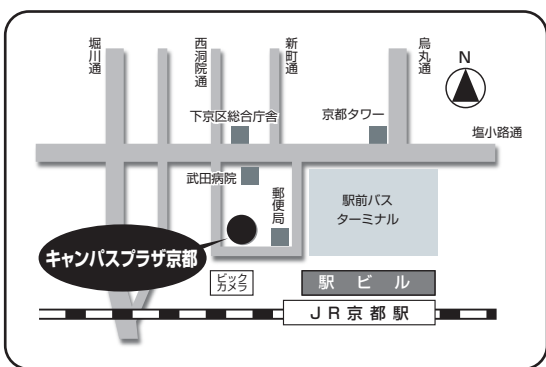
概要

探求型学習の特徴として、自分自身が習得している知識・技能を活用する機会が多く与えられるということがある。しかし、自分自身が設定した研究課題を解決するためには、既習の知識・技能を活用するだけでなく、新たな知識・技能を習得する必要があることが多い。

報告者らは平成14年度から、実際に専門家がすすめている科学研究に、高校生が参加することで、新知見を得るといった知的興奮を味わいながら、科学研究のプロセスや、必要な知識・技能を習得する機会を提供するというプロジェクトを進めてきた。本分科会では、これまでの実践報告を交えながら、知識・技能を活用する機会と自分が達成したいことに直接役立てるために学ぶ機会を、いかに生徒・学生に提供するかということについて議論を深めていきたい。

参加費（レジュメ・資料集含む）

京都府内の高等学校・大学関係者 1,000円
 それ以外（京都府内の企業参加者含む） 2,000円
 ※当日、受付にてお支払いください。



申込方法（先着順）

大学コンソーシアム京都 WEB サイトからお申し込みください。
 先着順とさせていただきます、定員になり次第、締め切らせていただきます。

期間 10月7日（木）12:00～11月19日（金）
 URL <https://event.consortium.or.jp/kodai8/>
 定員 第1部200名 第2部各80名 第3部各30名

手順

お申込み手続き完了後は、参加分科会の変更はできませんのでご注意ください。

- 上記 URL、もしくは「公益財団法人 大学コンソーシアム京都」ホームページ下部の「第8回高大連携教育フォーラム」のバナーから、「メールアドレス確認フォーム」にアクセスし、メールアドレスを入力・送信してください。
 - 送信いただいたメールアドレスに「参加申込フォーム」の URL をメールでお送りします。
 - 記載の URL にアクセスし、画面の指示に従って申込手続きを行ってください。
- ※「参加申込フォーム」URL の通知メールが届かない場合は、メールアドレス誤入力等の可能性がございます。その場合はお手数ですが「メールアドレス確認フォーム」にメールアドレスを再入力・再送信してください。
- ※お申込み手続き完了後に「申込完了メール」を送信します。翌日になっても申込完了メールが届かない場合は、ご面倒ですが大学コンソーシアム京都までお問い合わせください。